

弥彦村社教だより

平成29年12月 8日 NO. 7
弥彦村社会教育委員の会

《第3回地域づくり交流会報告》

9月30日（土）に3回目となる地域づくり交流会を開催し、40名を超える皆さんの参加がありました。今回は、これまでの2回の交流会と若彦会（若者中心の交流会）で出された意見を参考にして、小グループに分かれて、実際に実現するためにどうすればよいかを協議しました。

これまで出された意見は多岐にわたりますが、実際に実現するとなると簡単にはいかないものです。最初は、どのグループも協議が進まないようでしたが、段々と話が盛り上がり、弥彦のために何ができるかと熱の入った協議になりました。

各グループがまとめたものを発表し、互いの考えを共有しました。発表するごとに、感嘆の声聞こえ、充実した協議が行われたことが実感できました。



＜グループ協議の様子＞

社会教育委員の会では、出された意見をまとめ（以下にお示しします）、できることを実践していきたいと考えています。行政にお願いすること、既存の団体に協力をお願いすること、有志を集めて行動することと様々ですが、このたよりでお知らせしたり、村民の皆さんに協力を求めたいと考えています。 （文責 堀）

＜協議まとめ＞

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | ＜高齢者の活用＞ | ボランティアバンクをつくる。各分野の達人を募集し、活用する。 |
| | ＜人材育成＞ | リーダー、地域・インフラ・世代間コーディネーターを育成する。各団体と連携を図る。 |
| | ＜交流の場づくり＞ | 世代間交流ができる場をつくる。空き家を活用する。 |
| | ＜交流会の充実＞ | 参加者が次の参加者を増やす。各団体の長に参加をしてもらう。 |
| 2 | ＜コミュニティー＞ | ①村民が1つの目標に向かって協力する催しの開催 → 規模・内容を決めて各団体の協力を仰ぎ、広報等で参加者を募る。 ②高齢者が安心して暮らせる環境作り → 高齢者の実態を把握する。 ③保育園の帰りに、親がおしゃべりしたり、子どもが遊べたりする場所づくり → 児童館等の施設を開放する。 |
| | ＜環境＞ | ①村をきれいにする → 月一度、村内道路沿いの清掃活動を行う。 ②自転車の聖地としてブランド力を高める → サイクルスタンドの設置、レンタサイクルの増設 |

2	<p><教育> ①人材づくり → オリンピック出場、県内トップ学力 ②夜9時まで施設開放</p> <p><他市町村との交流> ①小・中学生、社会人の教育交流 → 英語発表会、大学見学、演劇発表 ②意見交換会の実施 → 活動、イベント等良いものを取り入れる</p> <p><PR> 「るろうに剣心」と村のコラボ</p>
3	<p><ボランティア> ボランティア有志を立ち上げ、活動参加、研修実施を行う。 → ①里山整備隊のつくり活動する（観光資源・環境保全） ②奉仕活動グループの立ち上げ（高齢者のゴミ出し手伝い等） ③ボランティア活動を等しての交流、発表の場づくり</p> <p><世代間交流> 高齢者の応援活動、既存施設の有効活用 → ①既存のイベントの魅力アップ ②各地域でテーマをつくり定期的に集まる ③小中学校の行事の際に、村民の参加</p>
4	<p><イベントの継続> 「竹あかり」の作成で村全体を巻き込む → ①小中学校、村民に作成を依頼する ②矢作・弥彦・麓と地区ごとの一体化に力を入れる ③「相撲の里」「赤ちゃん写真コンテスト」等のイベントを継続する。</p> <p><観光ガイドの充実> 様々な世代が関わり、観光ガイドの層を厚く → ①小中学校の総合学習で観光ガイドの学習をする ②地域住民を巻き込む ③集落ごとに持ち回りで行う</p>
5	<p><子どもの郷土愛を育む> 弥彦に定住・貢献してくれる子どもを育てる → ①弥彦の歴史・観光について教える ②子どもたちからアイデアを観光に活用する</p> <p><ボランティアの活用> 登下校時、イベント時、空き家の草刈り等で活用する</p> <p><観光の活性化> ①小布施や塩沢牧之通りのように補助金を活用 ②土産、創作料理を開発</p>
6	<p><資金> 資金はクラウドファンディング（起案者がインターネットを通じて資金を集める方法）で調達する</p> <p><過疎化を防ごう> 「やひコン」の開催 → ①村外からの移住者を増やすために出会いの場づくり ②「やひこバル街」の利用</p> <p><PR動画をつくらう> ①ユウチューブで発信する（世界に弥彦を知ってもらおう） ②QRコードを読み取ると動画が流れる ③Tシャツやポスター等にQRコードを示す</p>

<参加者の声>

参加しての感想： 参考・勉強になった。（10）より具内的な内容になってきた。（5）新たなアイデアが出てよかった。（4）楽しく交流できた。（3）少しでも実現できたらよい。（2）地域を考えるきっかけになった。（2）世代間交流を大切にしたい。
・話し合いの時間を長くしてほしい。・熱く弥彦のことを考えていた。司会者の力量が必要だ。（各1）

地域づくりへの意見： 各団体に活動してもらおう。 ・交流の場が大切だ。 ・可能なものから実現する。 ・交流会に中高生も参加させる。 各地域から参加者を募る。
・子どもの頃から交流をさせ、親世代が頑張る。 ・地域住民にいかに関心をもってもらうかがポイント。 ・交流会参加メンバーが中心に広げていく。 ・向こう三軒両隣の精神で地域力を活性化させる。 ・時代の流れを先読みし創意工夫が必要だ。
・弥彦の持てる力を明確に打ち出す。 ・ボランティアを育成する。 ・報発信を多くする。 ・実現に向けて村実行委員会を立ち上げる。 ・様々な団体の連携と情報の共有が必要だ。 ・交流会を開催する。 ・人材育成が大切。

《第1回教育フォーラム参加報告》

11月18日（土）、弥彦村教育委員会主催の第1回教育フォーラムに参加しました。文部科学省からコミュニティ・スクールマイスターに認定されている岐阜県白川村教育委員会新谷さゆり氏（社会教育主事）の講演を聞き、コミュニティ・スクールについて学んでから、弥彦村の子どもたちについて熟議（十分に議論すること）をしました。当日は、地域住民・行政職員・学校関係者が約50名参加しました。

(1) 講演

「地域とともにある学校」をテーマに白川村の実例をもとにコミュニティ・スクール導入のねらい、導入の流れ、導入後の効果について分かりやすくお話しいただきました。

《導入のねらい》 これからの時代（人口減少、職業の変化、グローバル化等）を生き抜く力を育成する。将来の地域の担い手（村に住んでいなくても村に貢献できる人）を育成する。地域から信頼される学校づくり。地域コミュニティの形成し活性化を図る。

《導入後の効果》 子どもたちは地域の人との対話、体験の中で着実に担い手として育っている。地域の人も担い手を育てることに張り合いをもち元気になった。ふるさと学習やクラブ活動を地域と学校で協働して取り組み、授業がより良いものになっている。



＜講師の新谷氏＞

(2) 熟議



＜熟議の様子＞

グループに分かれ「弥彦村の目指す子ども像（弥彦を愛し、夢や志をもって人とのつながりを広げる強くたくましい子ども）に向けて地域・家庭でできることは？」をテーマに課題と解決策を話し合いました。課題では子ども、地域、学校が関わる仕組みや場所がない、地域で子どもを育てる意識が薄い、解決策ではフリー参観日を地域と子どもと一緒に活動する場にする、地区子ども会の活動を子ども主体にする、学校に公民館や図書館を設置するなど多くの意見が出されました。

(3) 感想

コミュニティ・スクールについて学び、学校を核にした地域づくりのために、この制度が素晴らしい効果を発揮することを知りました。そして、学校と地域の関わり方を考えるきっかけとなりました。熟議では、参加者各々の想いを知ることができました。参加者の誰もが「素晴らしい話だった」と言っていたのが印象的でした。

今後は、弥彦村の目指す子ども像（思い・願い）を実現するためにも軸となる組織づくり・計画が必要だと感じました。 （文責 本間）

《地域からの情報・・矢作里神楽保存会》

矢作里神楽保存会は、大字矢作の氏神様矢作神社に伝わる矢作奉納里神楽舞を保存・伝承している団体です。昭和初期、里神楽が国上村（現燕市分水）から矢作にあった赤崎神社（かつて弥彦神社の行宮＝あんぐう仮宮であったと伝わる神社）に伝えられた頃は「れいじんかい令人会」と称し、矢作中組の人たちで組織されたそうです。大字矢作にあった神社はいずれも4月24日が祭礼日で、里神楽はこの日に中組の氏子総代の方の自宅庭に仮設舞台を立て、舞が奉納されていたとい



います。
昭和36年、新潟県に大きな被害を与えた第二室戸台風によって、大字矢作にあった3社（石動神社・赤崎神社・諏訪神社）は倒壊しました。その後、3社を合祀し、昭和46年、新たに矢作神社が建立されました。このとき矢作里神楽保存会を設立、里神楽もこの保存会に継承され、保存会の会員は矢作神社の氏子全員(大字矢作の全住民)となったのです。

昭和50年11月、弥彦村の無形民俗文化財に指定されました。毎年4月24日の祭礼に、矢作神社境内に特設舞台が設置され、里神楽が奉納されてきました。現在は、伝承の担い手である小中学生の舞人への配慮と、矢作集落春祭りを大勢の方から楽しんでいただけるようにと、毎年5月の第二日曜日に変更されました。

矢作奉納里神楽舞は毎年秋に開催される弥彦村文化芸能祭にも出演しています。また、平成28年1月には弥彦小学校に出向いて、3年の「総合学習」で、「伝統を受け継ぐ人たち」として保存会の皆さんがお話と里神楽の実演を披露して好評でした。

現在の会長は安達丈夫さん（3代目）で、会員は小中学生を含め31人います。中には神楽舞をしたり、笛や太鼓を奏でたりする人もいます。 （文責 柏原）

委員長	堀 隆行（弥彦中学校長）	副委員長	平井 茂人（村山）
委員	本多 隆峰（麓一区）	委員	柏原 路子（麓二区）
委員	丸山 浩（弥彦）	委員	本間 美幸（弥彦）
委員	那須 裕美子（川崎）		
事務局	橋 芳延（教育課）		

※ ご意見のある方は、近くの委員、もしくは中学校、教育委員会事務局にお電話ください。（中学校94-2101 事務局94-4311）